

はじめに

一般的に言語を学ぶには、読む・聞く・書く・話すの「四技能」が必要とされています。理想的な言語習得は、四技能が等しく少しずつ伸びていくことだと言っても良いでしょう。しかし実際に学んでいく中で、どうしても読む・聞くのインプットスキルに比べて書く・話すのアウトプットスキルが思うように成長しないなど感じる方は多いのではないのでしょうか。その理由に関して、「話す機会が少ない」「文法を意識し過ぎ」など様々な説明がなされますが、そういった犯人捜しのような評論的なスタンスにはさほど有用性や魅力を私は感じません。教える現場から発想する、リアルに効いて、即効性のあるソリューションをたくさん提供していけば、学習者のレベルアップに確実に貢献できると思うからです。

この本は、英語を教える現場でアウトプットスキルの強化を念頭に生まれたひとつのソリューションです。ビジネスパーソン、大学生、大学院生、大学教員、公務員など様々な学習者の弱いところを分析して、効果の高い、即効性のある学びを提供するために内容を組み立てました。

3冊の著書に加え、制作、編集、校正と様々な立場でこれまで15冊以上の書籍に関わってきましたが、そのすべてはオレンジバードのチームワークによって実現しています。本書も例外ではなく、オレンジバードの社内チーム及び外部の専門家との協働があって完成に至りました。本書で特筆すべきは、英文校正を担当いただいた言語学博士のエレナ・クラーク氏です。翻訳者や教育コンテンツクリエイターとして様々な場面でご一緒するクラーク博士からは、的確な校正はもちろん、内容に関しても有意義な助言を賜りました。また、版元であるベレ出版の編集チームの皆様にも御礼申し上げます。どのようにより有意義な書籍を作っていくかなど、企画段階から細部にわたるケアとサポートをいただきました。

本書において、説明の足りない(わかりにくい)記述、誤字脱字、その他不備があった場合、すべて著者に責任があります。至らぬ点としてお詫び申し上げます。お気づきの方は、ぜひ忌憚ないご指摘をお寄せください。

本書の対象

書く・話すのアウトプットスキルは、学習の段階によって効き目のある学び方は大きく異なります。本書は、中級から中上級の学習者を想定して書いています。CEFRでいうとB2の真ん中くらいです。TOEIC L&Rではおおむね700点以上、IELTSバンド4.5以上、TOEFL iBTで言えば60～65点程度の学習者をイメージしています。

加えて、英語使用環境でいうと主にビジネスや学界で活躍する方を念頭に書いています。とりわけ、公務やビジネスで英語を使う、あるいは使いたいと考えている方、大学生、大学院生、企業・大学の研究者といった方には、すぐに取り入れていただける表現を集めました。

また、ライティングのある検定試験の準備をしている方にも役立つ内容をたくさん盛り込んでいます。TOEFL-iBT、IELTS、英検準1級や1級の受験を控えている方には特におすすめです。ある程度英語力があって、今からはアウトプットスキルを伸ばしたいという方にぜひ使っていただきたいと願っています。

本書の狙い

学習者にとって英語でアウトプットする際のフラストレーションの主な因は、伝えたい内容と言葉として出てくる英語の落差です。年齢や社会的立場相応の内容を考えているのに、言葉に出してみたら何かとシンプルすぎて稚拙にすら聞こえる英語になってしまう現象です。これは、母語（日本語）と第二言語（英語）の習熟度の違いがそのまま具象化されるからです。

アウトプットスキルが発揮される場面は多岐にわたります。ビジネスであれば顧客とのコミュニケーションや社内外の会議、学界ならゼミ

やシンポジウム、学会発表、発表後の質疑応答、論文の準備や執筆などです。

意見を言ったり質問に答えたりする場面では、よりロジカルにより明快に英語で話したいものです。ニュアンスを加味して理解できる、ニュアンスを付加して発言できる、そういった側面のレパートリーを増やしてスキルとして定着させることが本書の狙いです。

アウトプットスキルを伸ばすための学習法は様々あり、一つに絞ることは困難です。たくさんインプット（読む・聞く）をしてボキャブラリーを増強させる、文法に磨きをかけて精度を高めるなど、多面的な練習を重ねてはじめて目に見える前進が図れます。表現方法の幅を意識的に広げていくことも、アウトプットスキル向上のための重要な項目のひとつです。

本書は、ディスコースマーカー、指示語、ニュアンス付加の動詞など、アウトプットの「接着剤」となる表現に焦点を絞って、詳しく解説しています。

本書の使い方

本書はシンプルな作りをしています。各Unitのテーマが決まっており、解説→例文→練習問題の順に進めていく構成です。「初めて知った」という内容は少ないと思います。過去に見聞きしたことのある表現について、ニュアンス、使い方、違いなどを本書で「深掘り」してください。解説を読んでから練習問題を解くことが重要です。練習問題の解答や日本語訳は巻末に掲載していますので、セルフチェックしてみてください。また、リスニング問題は数回聞き、しっかり理解することを目指してください。テスト勉強ではないので、スピードより精度を重んじてゆっくり納得しながら読み進めることをおすすめします。

因果関係表現 ②

前の Unit では因果関係表現のうち、動詞や動詞句を中心にみてきました。この Unit では、接続詞を使った因果関係表現をおさらいします。動詞と同じく、「原因に重きを置く」タイプの構文と「結果に重きを置く」タイプの構文に分かれます。動詞表現と併せてマスターしておきましょう。文頭に結果を持ってくるか原因を持ってくるかで変わるのは、情報量ではなく、発言者が何に重きを置くかだと改めて認識しましょう。例えば、「友達に手伝ってもらったお陰でより良い成績を獲得できた」と言いたいとき、Thanks to your help, I was able to get better grades. と I was able to get better grades, thanks to your help. を比べてみると、伝えている情報はまったく同じですが、Thanks to your help を文頭に持ってきている方が相手に感謝を伝えたい場合はより適切な表現です。こうして、重きを置きたい要素を文頭にもってきて、優先順位を高くすることでニュアンスを付加することができます。

1

接続詞の因果関係表現

原因に重きを置く

原因に重きを置く場合、【因果関係接続詞+原因+結果】というパターンを使います。よく使われる接続詞には次のようなものがあります。

～の結果、～ゆえに、～の影響で

owing to due to because of
as a result of as a consequence of thanks to

thanks to は通常ポジティブな事柄に使います。owing to や due to は中立的なので、良いことにも悪いことにも使えます。

例

○ Due to 【因果関係接続詞】 the influx of tourists to Kyoto 【原因】, many local residents are complaining about noise pollution 【結果】.

京都への観光客の流入により、多くの地元住民が騒音被害を訴えています。

○ Thanks to 【因果関係接続詞】 your guidance 【原因】, I was able to finish the project in time 【結果】.

ご指導いただいたおかげで、時間内に完成させることができました。

○ As a result of 【因果関係接続詞】 the advertising campaign 【原因】, the company was able to acquire a number of new clients 【結果】.

広告キャンペーンの結果、その会社は多くの新規顧客を獲得することができました。

結果に重きを置く

結果に重きを置く場合、【結果 + 因果関係接続詞 + 原因】というパターンを使います。

例

○ We believe that the failure in the conveyor belt 【結果】 was because of 【因果関係接続詞】 metal fatigue 【原因】.

今回のベルトコンベアの故障は、金属疲労によるものだと考えています。

○ The athlete's improved performance 【結果】 is definitely due to 【因果関係接続詞】 the novel training methods of her new coach 【原因】.

この選手のパフォーマンスが向上したのは、新しいコーチの斬新なトレーニング方法のおかげであることは間違いありません。

○ The floods and droughts all across Europe 【結果】 are a consequence of 【因果関係接続詞】 climate change 【原因】, according to scientists.

科学者によると、ヨーロッパ全土で発生している洪水や干ばつは、気候変動の影響によるものだそうです。

2

一般化と具体化 — 因果関係表現の違い

一般的な話をするか、具体的な話をするかによって、因果関係表現の使い方が異なります。主な傾向として、接続詞（句）はより具体的な場面の表現に使い、動詞は一般的な状況（そもそも論）を指す傾向にあります。あくまでも傾向であって厳密なルールではありませんが、話す・書く際に意識しておくことでよりわかりやすい英語になります。

一般化表現

いつもあることや普遍的な事実、当然と言えるようなことなどが中心です。単純現在や単純過去といった時制と組み合わせるとより自然に聞こえます。

例

○ Regular exercise leads to better health.

定期的な運動は、より良い健康状態につながります。

○ Sitting all the time leads to lower back pain.

座ってばかりいると腰が痛くなります。

さらに一般化された表現

might result in など、法助動詞を活用してさらに確度を下げて、「可能性」に近い表現に仕立てていくこともできます。

例

○ Losing weight tends to result in improved health.

(体重の)減量は、健康状態の改善につながる傾向にある。

具体化表現

「そもそも論」ではなく、具体的でよりリアリティのある話をする時に接続詞の表現を使います。

例

- The high levels of air pollution in the city are a direct consequence of the increase in traffic.

市内の空気汚染が高レベルであるのは、交通量の増加が直接の原因です。

- The company's profits have decreased as a result of the recent economic downturn and worsened consumer spending.

会社の利益は、最近の景気低迷と消費支出悪化の結果、減少しました。

- I'm really happy because I reconnected with an old friend.

昔の友達と再会できたので、本当に嬉しいです。

その他の典型的な因果関係表現

- consequently それ故に、その結果
- because なぜなら
- if A occurs, then B Aが発生するとB
- since なので
- for this reason そのため
- for なので

例

- Since the train was delayed, I arrived late for my appointment.

電車が遅れたため、予約に遅れてしまいました。

- If you don't water the plants regularly, they will wither and die.

定期的に水をやらないと、植物はしおれて枯れてしまいます。

- She spent all her savings on unnecessary things. As a result (= consequently), she couldn't afford to pay her rent.

彼女は無駄な物に全ての貯金を使ってしまいました。その結果、彼女は家賃を払う余裕がありませんでした。

Task 1

正しいペアを見つけて、文を作りましょう。ペアごとに結果に重きを置く文と原因に重きを置く文を作ってみましょう(計2つ)。動詞、名詞、時制の形を適宜調整しましょう。

【接続詞】

owing to due to because of as a result of
as a consequence of thanks to

【動詞】

cause lead to result in produce
can be seen as the cause for

the heavy rainfall	she was promoted to manager
negative effects on mental health	a decline in bee populations
the company's decision to cut costs	the excessive use of technology has been shown
she felt groggy and unproductive throughout the day	the ubiquitous availability of interactive digital maps
the widespread use of pesticides	severe flooding in the city
her dedication and hard work	the layoff of several employees
GPS-enabled devices	the teacher's strict grading policies
the students' high levels of stress	the lack of sleep

数字と図表の表現

ビジネスや学術研究といった「真面目な話」をする場面では、数字や図表を使うと、明確かつ正確に意図を伝えることができます。一定のルールを押さえ、ニュアンスを加えてアウトプットの精度を高めることがこの Unit の目的です。

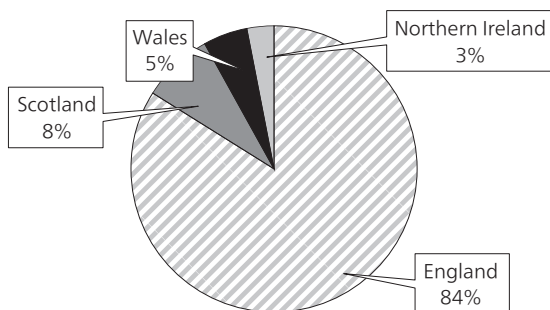
1

数字を図解で伝える

パイチャート

お菓子のパイの形をしていることから「パイチャート」と呼ばれるこのタイプのグラフは、100%で表現できるものの内訳によく使います。ドーナツチャートや三次元パイチャートなどのバリエーションも存在します。

Population distribution of the UK



ここでは、パイチャートを例にグラフの説明でよく使う表現を学びましょう。上記の図の解説の例です。

例

○The population of the United Kingdom is estimated at 67,081,234 people. As we can see from the chart above, the **overwhelming majority** resides in England. **One in twenty** UK citizens lives in Wales, whereas Northern Ireland, at 3%, has a population **roughly half** that of Wales. While Scotland is the biggest country after England, the Scots are still **a small minority** in the UK, representing 8% of the total population.

イギリスの人口は 67,081,234 人と推定されている。上のグラフからわかるように、**圧倒的多数**がイングランドに住んでいる。イギリス国民の **20 人に 1 人**がウェールズに住み、北アイルランドの人口は 3%で、ウェールズのおよそ半分である。スコットランドはイングランドに次いで大きな国だが、それでもスコットランド人は**少数派**で、UK 全体の **8%**である。

● majority / minority

統計表現として、minority は 49%以内、majority は 51%以上を表しますが、多くのケースでは2%と 49%をまったく同列には扱うわけにはいきません。そのようなとき、ニュアンスを加えて表現することが重要になります。

- 1% ~ 20% ... a small minority
- 21% ~ 39% ... a minority
- 40% ~ 49% ... a substantial/ significant minority
- 51% ~ 55% ... a small majority
- 56% ~ 79% ... a majority
- 80% + ... a large majority

overwhelming majority (圧倒的多数)や surprisingly small minority(驚くほどの少数)などの評価的な形容詞や副詞を使うと、あえて発言の中立性の殻を破って自らのスタンスを伝えることができます。

●その他の表現

以下の全てに roughly, approximately, nearly のような副詞を使ってニュアンスを加えることができます。

one in five (ten, four) は実質的にパーセンテージ表現と同じですが、読み手や聞き

手にとって想像しやすいため、よく使われます。英語の感覚として、10% of Chinese people よりも One in ten Chinese といった方が消化しやすいと考えられているわけです。繰り返しを回避するために使われることもあります。

twice as many (seven times as many) は、比較表現です。

例

○Twice as many people own a car in Hokkaido as in Tokyo.

北海道では、東京の 2 倍の人々が車を所有しています。

バーチャート(棒グラフ)やラインチャート(折れ線グラフ)

物事の変化・増減・推移を表すのに適しているグラフです。このタイプのグラフを解説する際は、「推移」の描写を念頭においた表現となります。よく使う動詞とそれらにニュアンスを付加するための副詞、また名詞と形容詞の組み合わせを以下にまとめました。存在し得る全てではありませんが、動詞を「上昇」と「下降」の 2 つのカテゴリに分類し、「名詞と形容詞の組み合わせ」としてまとめています。「示す・指す」の意味で、indicate, demonstrate, show などは割愛しています。

上昇、増加を表す動詞

□ rise /raɪz/ 上昇する

○The line graph shows that prices of commodities rose in the third quarter.

折れ線グラフは、第三四半期に商品の価格が上昇したことを示している。

□ soar /sɔːr/ 急騰する

○The bar chart indicates that sales soared in December.

棒グラフは 12 月に売上が急騰したことを示している。

spike /spaɪk/ 急増する

- The unemployment rate spiked in January, as the line graph reveals.
折れ線グラフから明らかになっているように、1月に失業率が急増した。

 climb /klaɪm/ 登る

- The bar chart shows that our market share has been steadily climbing.
棒グラフは、私たちの市場シェアが着実に上昇していることを示している。

 increase /ɪnˈkriːs/ 増加する

- The number of users has increased over time, as evident from the line graph.
折れ線グラフから明確なように、ユーザー数が時間とともに増加している。

 grow /grəʊ/ 成長する

- The bar chart illustrates that the company's revenue has been growing.
棒グラフは、会社の収入が成長していることを示している。

 surge /sɜːrdʒ/ 急上昇する

- The line graph depicts the extent to which demand for our product has surged.
折れ線グラフは、当社製品に対する需要がいかに急上昇したかを描いている。

 jump /dʒʌmp/ 飛び上がる

- Sales figures jumped in the last quarter, as evident from the bar chart.
棒グラフは、最後の四半期に売上数字が大幅に跳ね上がったことを示している。

 escalate /ˈeskəleɪt/ 次第に上昇する

- The line graph indicates that the cost of raw materials has been escalating.
折れ線グラフは、原材料のコストが次第に上昇していることを示している。

 advance /ədˈvæns/ 進む

- The line graph demonstrates how the project has advanced since January.
折れ線グラフは、プロジェクトが1月以来どう進んでいるかを示している。

 amplify /ˈæmplɪfaɪ/ 増幅する

- The bar chart shows that our efforts have helped to amplify the brand's reach.
棒グラフは、当社の努力がブランドのリーチを増幅させるのに役立っていることを示している。

 expand /ɪkˈspænd/ 拡大する

- The line graph exhibits how the customer base has expanded over the years.
折れ線グラフは、顧客基盤が何年にもわたって拡大してきたことを示している。

 strengthen /ˈstreŋkθən/ 強化する

- The bar chart reflects the steps taken to strengthen our market position.
棒グラフは、マーケットポジションを強化するための取り組みを反映している。

mount /maʊnt/ 増す

- The line graph shows mounting pressures on our supply chain due to increased demand.

折れ線グラフは、需要の増加により供給チェーンに対する圧力が増していることを示している。

 multiply /'mʌltɪplaɪ/ 増やす

- The line graph shows how our investments have multiplied over the years.

折れ線グラフは、当社の投資が何年にもわたって増えてきたことを示している。

 improve /ɪm'pru:v/ 改善する

- The line graph demonstrates how the company's performance has improved.

折れ線グラフは、会社のパフォーマンスがどのように改善したかを示している。

 ascend /ə'send/ 上昇する

- The bar chart indicates the ascending trend of our sales figures.

棒グラフは、売上金額の上昇傾向を示している。

 shoot up /ʃu:t ʌp/ 急騰する

- The line graph shows how the company's stock prices shot up after the announcement.

折れ線グラフは、発表後に会社の株価が急騰したことを示している。

下降、下落を表す動詞

 fall /fɔ:l/ 落ちる

- The bar chart shows how the company's profit margins fell during the pandemic.

棒グラフは、パンデミック期間中に会社の利益率がいかに落ちたかを示している。

 drop /drɔ:p/ 下がる

- Sales dropped significantly during the first quarter, as illustrated by the line graph.

第一四半期に売上が大幅に下がったことが、折れ線グラフに示されている。

 decline /dɪ'klaɪn/ 減少する

- As you can see from the bar chart, customer satisfaction has declined since the last survey.

棒グラフを見てわかるように、前回のアンケートより顧客満足度が低下している。

 decrease /dɪ'kri:s/ 減少する

- Our annual revenue decreased owing to the lockdowns in Europe, as the line graph indicates.

折れ線グラフが示すように、当社の年商は欧州のロックダウン期間中に減少した。

 shrink /ʃrɪŋk/ 縮小する

- The bar chart shows how our market share has shrunk over the years.

棒グラフは、当社の市場シェアが何年にもわたって縮小してきたことを示している。